

地方独立行政法人山梨県立病院機構 第5回理事会 議事録

1 日 時 平成23年3月23日(水)午後4時～午後5時

2 場 所 県立中央病院 2階 理事長室

3 出席者 理事長 小俣政男

理 事 山下晴夫、藤井康男、若月茂樹

監 事 早川正秋、加藤隆博

(欠席者 なし)

(出席者 理事長・理事 計4名。今理事会は定足数を満たし成立した。)

4 会議次第

(1) 理事長あいさつ

(2) 報 告

収支見込等

事務局 各概要について説明

(資料1「法人化初年度収支見込」等を読み上げ。)

中央病院の入院・外来稼働額は、12月までの累計で法人化前に比べ10億6,536万円増加した。平均在院日数は、12月までの累計で14.3日であった。病床の回転率が向上することで、新規入院患者数が増加し、平均単価の増加につながった。患者さんのために“きれいに早く治す”ことをキーワードとし、病院を挙げて取り組んだ結果と考える。

北病院も、入院・外来稼働額が12月までの累計で9,784万円増加した。医療観察法病棟の開設に伴う増収が主な要因である。

監 事 経常利益が上がったことで、退職給付引当金の上積みを増減させてよいか。

事務局 未処分利益剰余金として計上していても、費用の過年度の損失になかなか転嫁できないだろう。となれば、退職給付引当金に積み上げようと考えた次第である。

監 事 通常、上場企業などがそのようなことをする場合は、監査法人

に事前に確認をする必要があるかと思う。

事務局 事前に話を聞いたところ、注記すればよいとのことであったが、もう一度確認する。

理事長 評価委員会でも同じ質問が出た。ご指摘のように、具体的に監査法人に確認し、文書で残すこととしたい。

(3) 議 事

年度計画(案)

事務局 各概要について説明

(資料2「地方独立行政法人山梨県立病院機構平成23年度計画(案)」、資料3「中期計画・年度計画(案)」、資料4「平成23年度当初予算について」、資料5「H23収支比較」を読み上げ。)

ドクターヘリの導入、がんセンターの整備、精神科救急・急性期医療の充実、医療従事者の確保、患者対応窓口の改善などの計画、予算、収支について説明。

採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。

理事長 県立中央病院には、これまで、立派な建物を建設したが、大きな赤字になっているなど、ネガティブなイメージが漂っていたやに見受けるが、凶らずも、この度の震災に際しても、十分な機能を有することが明らかになった。例えば、電力が複数系統(ガス・重油発電)でバックアップされ、ガーゼの消毒もプラチナとガスメッキの両方が機能しているなど、他の病院からの援助の依頼もあった。

法人化後は、“さあこれから頑張っていこう”と病院スタッフ皆がんばっているので、建設的な御批判、御意見をいただきたい。

周産期あるいは救急医療で優れた実績を残してきた。また今後、通院型のがんセンターやドクターヘリを整備し、様々な要素を兼ね備えたコンパクトで効率的な医療の要塞化を目指して努力している。

規程改正（案）

事務局 各概要について説明

（資料6「規程改正の概要」を読み上げ。）看護師の就労環境を改善するため、夜間看護手当の準夜と深夜の通しの額を、7,200円から10,600円へ増額する。

監事 どのくらいの財源が必要か。

事務局 年間で約1億円と見込んでいる。一人当たりの増加額は1回につき3,400円であり、1カ月に4回は夜間勤務を行うので、約16,000円増加する。年間では約20万円となり、看護師数500人を乗じると約1億円となる。

採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。

監事 看護師不足が各地で叫ばれているが、当院ではどれくらい必要か。

理事長 看護師の必要数は相対的な面がある。患者さんを病床に長くとどめておくと、より多くの看護師が必要となる。病床有効利用率というのは、いわば滞留率を高める指標であった。回転率を高める、すなわち“患者さんをきれいに早く治す”ことにより、相対的な看護師の必要数は抑えられる。しかし一方、周産期医療などを手厚く行う責任があり、その分より多くの看護師を必要とする。

（4）その他

院長 北病院の電子カルテ化を進めるにあたっては、震災をあらためて教訓とし、自家発電設備などの電源を強化する必要性がある。

事務局 次回の理事会はいつ開催すべきか。

一同 - 6月28日の開催で合意 -